

# ほっかいどう

広報紙

その先の、道へ。北海道  
Hokkaido. Expanding Horizons.

年5回発行  
5・7・9・11・2月の下旬

北海道

当てよう!  
道産品!  
裏表紙をチェック! >>>>>

2018年  
3月号  
平成30年2月発行  
通巻224号

【特集】みんなでつくる、北海道150年事業

2018年、北海道は命名150年。  
未来へつなぐ、みんなでつなぐ。  
記念の年を一緒に盛り上げましょう。



先人から受け継いだ誇るべき財産を、次の世代に向けて、  
しっかりと守り、育て、発展させ、世界の中で輝く地域となるよう、  
道民の皆さんや企業・団体・市町村の方々とともに、  
北海道を盛り上げていきます。

北海道知事

野村ひろみ



## 150 2018年は北海道命名150年

1869(明治2)年、松浦武四郎が「北加伊道」を含む6つの名前を候補として明治政府に提出し、太政官布告によって本道が「北海道」と命名されました。それからことして150年目となります。

この記念すべき年に、道や経済界などが組織する実行委員会では、道民の皆さんとともに、歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、節目の年を祝い、次の50年に向けた北海道づくりにつなげていくため、数多くの記念事業を進めています。

道民の皆さん一人一人が、新しい北海道を自分たちの力で創っていく気概を持ち、北海道の価値を共有し、国内外に発信することで、文化や経済などさまざまな交流を広げていきましょう。

「北海道」の名付け親  
松浦武四郎

松浦武四郎は、江戸時代の終わりから明治にかけて活躍した探検家です。6度にわたる蝦夷地(北海道)の探査を通じてアイヌの人々とも交流を深め、蝦夷地の詳細な記録を数多く残しました。



写真提供:三重県松阪市松浦武四郎記念館

## 150 北海道150年イヤーが幕開けしました!

北海道150年の幕開けを盛り上げようと、道内各地でキックオフイベントを順次開催しています。1月19~21日の「札幌モーターショー」や2月5~12日の「さっぽろ雪まつり」などでは、会場内に北海道150年のPRブースを設置するとともに、ステージイベントを実施しました。このほか全道各地でPRイベントを展開中で、多くの皆さんに参加していただき、盛り上がりを見せています。

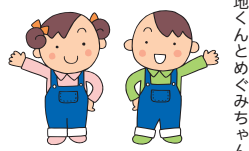


「札幌モーターショー」のPRブース

ことし1年間行われる北海道150年事業は、これからが本番です。150以上の企業・団体などが「パートナー」として登録され、それぞれが持つ企画力やノウハウを生かして事業を展開するとともに、自治体や団体、個人が全道各地で約500の「北海道みらい事業」を実施していきます。北海道150年事業を、道民の皆さんも一緒に盛り上げていきましょう。

### クイズ! 北海道の日

「食育の日」は、毎月何日?



大地くんとめくみちゃん

答えは中面下に▶

▶特集に関するお問い合わせ 北海道150年事業実行委員会事務局 ☎(011)204-5995





メインイベントは、夏の記念式典と北海道150年ウィーク

記念式典

- 日程:8月5日(日)
●会場:北海道立総合体育センター「北海きたえーる」(札幌市)
●テーマ:先人に学び未来につなぐ

メイン会場/13:00~16:00(予定)

- 第1部 式典 式辞、青少年の誓いなど 道内各地域との中継も予定
●第2部 記念プログラム
●歴史・文化、アイヌ文化や開拓の歴史、地域の伝承芸能の紹介 など
●未来への躍動 北海道へのエール、若い世代のパフォーマンス など
●第3部 スペシャルライブ 子どもたちやアーティストのステージ など

サブ会場/9:00~17:00(予定)

- 北海道の未来トークセッション
●150年特設ブース(パートナー、実行委員会メンバー など)
●パネル展(歴史、地域の紹介、北海道遺産 など)



北海道150年ウィーク

- 日程:7月14日(土)~8月26日(日)
●会場:道内外の各地にて
夏休み期間を含む「北海道150年ウィーク」では、「食」「アート」「文学」「音楽」「スポーツ」「自然」などをテーマに、企業や団体、市町村などが記念イベントを行います。
また、松浦武四郎が明治政府に名称を提案した7月17日は、北海道の新たな記念日「北海道みんなの日」です。当日は、博物館や美術館をはじめとする道立施設の入場料などが無料になります。ぜひご利用ください。

150 始まっています!みんなの150年事業

北海道150年記念ボールをすべての新生児にプレゼントします。

ことしは、命名150年とともに、北海道日本ハムファイターズが誕生して15年目という節目の年。この記念の年にかけがえのない命が誕生したことをお祝いするため、北海道150年ロゴマークと大谷翔平投手のサインをデザインした記念ボールを、2018年に生まれた道内の全...



北海道150年記念ボール

新生児のご家庭に、市役所・町村役場へ出生届を提出した際に贈呈しています。キャッチボールを通して、親子の絆が一層深まることを願っています。

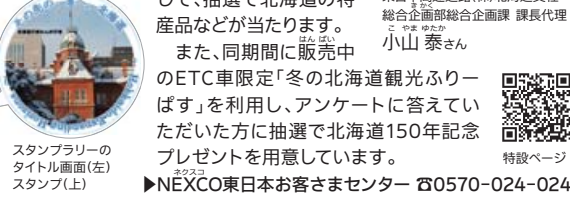


球団マスコットのB☆B

また、球団マスコットのB☆Bは、ことしから「みらい大志」として地域貢献をテーマに、グラウンドの外に出て北海道を盛り上げます。
▶北海道日本ハムファイターズお客様センター ☎(011)857-3939

スタンプラリーとフリーパスで冬のドライブ観光と北海道150年を盛り上げます。

東日本高速道路(株)北海道支社では、冬の観光促進を目的として、スマホのGPS機能を利用した「冬ってこんなに面白い!!北海道スマホスタンプラリー」を4月2日まで実施中です。「北海道命名150年賞」「松浦武四郎賞」などを設け、取得したスタンプの数に応じて、抽選で北海道の特産品などが当たります。
また、同期間に販売中のETC車限定「冬の北海道観光ふりーぱす」を利用し、アンケートに答えていただいた方に抽選で北海道150年記念プレゼントを用意しています。
▶NEXCO東日本お客様センター ☎0570-024-024



全道各地で多彩なパートナー事業とみらい事業が繰り広げられています。皆さんもぜひ参加して、北海道150年を盛り上げましょう。

お雇い外国人たちを学ぶことは、北海道の発展を促すヒントです。

「北海道久成会」は、札幌に開拓使麦酒醸造所をつくり、産業の礎を築いた開拓使高官・村橋久成の功績を語り継ぐ活動を行っています。
北海道150年事業として取り組むのが、4月16~19日に札幌で開催するパネル展「開拓使の近代化事業とお雇い外国人たち」。明治の開拓初期、技術や知識を学ぶため北海道に招いたお雇い外国人たちの活躍や功績をたえ、いまの私たちの暮らしにどのように生きているか学び探った内容を、パネルを通して皆さんにお伝えします。
▶北海道久成会 ☎(011)681-5480



北海道久成会顧問 田中 和夫さん



写真提供:北海道大学附属図書館

鉄道とともに発展した宗谷地域の歴史を次の世代へ。

稚内北星学園大学の附属研究機関である「宗谷地域研究所」では、宗谷地域の振興のため、自然や歴史、文化、産業について研究しています。その一端として取り組んでいるのが「宗谷本線、天北線の歴史とストーリー」可視化プロジェクトです。
2路線の変遷に伴う産業発展の変化、人口動態などをマッピングし、写真・映像などとともにインターネットで公開します。宗谷地域の歩みを探るデータとして、さまざまな学びに活用していただきたいと思います。
▶稚内北星学園大学 ☎(0162)32-7511



稚内北星学園大学学長 齊藤 吉広さん



1989(平成元)年の路線図と主要駅

ほっかいどう学は面白い。過去を学び、未来を語りましょう。

北海道の歴史・文化に興味を持つ仲間が集まる「ほっかいどう学を学ぶ会」は、北海道命名150年のことし、設立10周年を迎えます。
そこで「北海道命名150年から未来を探る」をテーマに、5月と11月に松浦武四郎に関する講演会や研究発表会を行うほか、武四郎の故郷・三重県松阪市への訪問、「武四郎の道を行く〜石狩川の淵を訪ねて〜ツアーや「さっぽろウォーク」などの開催を予定しています。これらの活動にはどなたでも参加できます。また、会員になって一緒に「ほっかいどう学」を学ぶ仲間も募集しています。
▶(公財)北海道生涯学習協会 ☎(011)231-4111(内線36-343)



ほっかいどう学を学ぶ会 幹事長 井上 和男さん



音威子府村の「北海道命名之地」にて

記念商品も続々と販売されています!
ビール、発泡酒、日本酒、ワイン、菓子、マスキングテープ、ボールペン、甘酒餅、マヨネーズ、キャラメル、どら焼き

お知らせ! 赤れんが
お問い合わせは
▶マークの窓口、またはホームページへ。

子どもの進学支援について -子どもの貧困対策-

道では、子どもの貧困対策を効果的に進めるため、札幌市と連携し、北海道大学と共同で「北海道子どもの生活実態調査」を実施しました。調査結果からは、高校2年生の大学などへの進学希望は、年収が低いほど「高校まで」と回答する割合が高く、そのうち半数近くが「進学に必要なお金のことが心配だから」と回答しています。また、教育を受けさせるためのお金の準備状況についても、年収の低い家庭ほど「めどはついていない」という回答が多く、家庭の所得が子どもの進路選択に大きな影響を与えている実態などが明らかになりました。
低所得者などへの支援は、日本学生支援機構が実施する給付型奨学金や貸与型奨学金(無利息・有利息)のほか、大学や民間団体などの援助制度があり、さらに、ひとり親家庭についても、母子父子寡婦福祉資金貸付などがあります。
支援制度の詳細については、道のホームページをご覧ください。

道立診療所で働きませんか

道では、道立天売診療所(天売島)、道立香深診療所(礼文島)において勤務する看護師を募集しています。
地域医療に興味のある方、自然豊かな場所での生活をお考えの方はぜひお問い合わせください。
詳しくはホームページをご覧ください。
▶道庁地域医療課 ☎(011)204-5248

効果的な部活動の取り組みを進めています

近年、生徒や教員の過労防止、心身のリフレッシュ、生徒が家族や友人などと多様な体験をできる時間の確保などのために、部活動休業日を週1、2日設定する取り組みが全国で広がっています。
道教委が行っているスポーツドクターの講演では、
●適度な休養を積みながら練習することで練習効果が向上する
●休みなく練習を続けると運動能力が低下するとともに、けがのリスクが高まる
などと指摘されています。
道教委では、関係団体と協議し、公立の中学校、高校において、
●週1日程度は休業日を設定する
●休日は半日程度の活動とする
などとしています。
取り組みの趣旨を踏まえ、保護者をはじめ道民の皆さんには、部活動休業日の取り組みにご理解をお願いします。
▶教育庁教職員課 ☎(011)204-5723

北海道総合教育大綱を策定しました

道では、北海道の教育の目標や施策の根本となる方針を定める北海道総合教育大綱を新たに策定し、4月から施行します。新たな大綱では、目指すべき人材を「その先の道を切り拓く北海道人」とし、北海道で生まれ育つ喜びや暮らし続けたいという思いを持つことができるよう、知事と教育委員会が連携しながら、学校、家庭、地域、高等教育機関、行政、産業界、各種団体などの皆さんとともに、北海道の総力をあけて教育・人づくりを進めていきます。
▶道庁総合教育推進室 ☎(011)206-7380

身近なサイバー犯罪にご注意

ネットショップの詐欺被害が増加しています。こんなお店には注意し、少しでも怪しいと感じたときは、取り引きをやめましょう。
●店名と振込口座が異なる
●代金引換で支払いができない
また、クレジットカードの不正利用も増加しています。買い物をする際のカード情報やログインのパスワードを入力する際は「https」から始まるサイトに繋がっているかを確認するようにし、利用明細に覚えがない記録があったときは、すぐにカード会社に連絡しましょう。
▶道警サイバーセキュリティ対策本部 ☎(011)251-0110

未来へつなぐ北海道遺産を募集しています

北海道の自然や歴史的建造物など「次の世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物」である北海道遺産は、過去2回の選定により、52件が選ばれ、各地で保全・活用の取り組みが進められてきました。本年は、本道が「北海道」と命名されたから150年目という節目の年となることから、NPO法人北海道遺産協議会では、新たな北海道遺産の候補を募集しています。地域の遺産と人とのつながりを見つめ直し、未来に向けて豊かな魅力的な北海道を実現していきましょう。
詳しくはNPO法人北海道遺産協議会ホームページをご覧ください。
●申請資格/その遺産の保全・活用に主体的に関わることができる団体(市民団体・企業・自治体など)
●申請期限/3月30日(金)
●決定・公表/8月(予定)
●提出書類/①申請書②推薦書(学識経験者、学芸員、郷土史家などが、専門的な視点から、推薦理由を記載したもの)
●提出先 [メール]info@hokkaidoisan.org [郵送]〒060-0041 札幌市中央区大通東2丁目3番地1 第36桂和ビル7階 NPO法人北海道遺産協議会事務局宛
申請書・推薦書はこちらから
▶道庁地域政策課 ☎(011)204-5149

注目! 地域から
振興局の話題をお届けします。
ひやまWalkerの表紙

宗谷総合振興局 湯治なら、日本最北の温泉郷・豊富温泉へ
近年、アトピーや乾癬※1に悩む方々から「奇跡の湯」として注目される豊富町の豊富温泉。昨年、町営の入浴施設「ふれあいセンター」が、道内で初の「温泉利用型健康増進施設」として厚生労働省に認定され、湯治客の交通費や施設利用料について所得税の医療費控除が受けられるようになりました。
センターにはコンシェルジュ・デスクを設置し、健康相談に応じるなどスタッフが湯治生活をサポートします。近隣には、湯治客専用の宿泊施設「湯快宿」や地域の交流施設「湯の杜」も。詳しくはコンシェルジュ・デスクまで。
▶豊富温泉コンシェルジュ・デスク ☎(0162)82-3782

釧路総合振興局 冬のくしろ地域の魅力発信!キャンペーン実施中
市町村や企業、団体などで構成する「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信協議会」では、道東自動車道くしろ到達のPRと、冬季の誘客・管内周遊促進を目的として、3月18日(日)まで冬のキャンペーンを実施しています。キャンペーンの公式サイト「くしろ冬旅GUIDE」では、2月は温泉、3月はチーズをテーマに情報を発信。サイトからアンケートに答えると抽選で管内で使えるペア宿泊券が当たります。
キャンペーンに参加し、冬も魅力がいっぱいの「くしろ地域」にぜひお越しください。
▶くしろ冬旅GUIDE ☎(0154)43-9147

報道議会
定例会の概要などをお伝えします。
平成29年第4回定例会(11/28~12/14)

議員研修会の開催(11月28日)
議員の政策立案機能の充実・強化などを目的に、日本赤十字北海道看護大学教授・災害対策教育センター長の根本昌宏氏を講師に迎え、「冬の災害を想定した命を守る避難所・避難生活」をテーマとした研修会を行いました。
議員研修会の詳細は、ホームページの議会トピックスに掲載中です。

~ホームページをご覧ください~
道議会ホームページでは、議会中継・録音、議会の日程、傍聴・見学のご案内などをご提供いただけます。
なお、質問などの詳細は、市町村役場等に配布している冊子「北海道議会時報」でもご覧いただけます。

~次回定例会のお知らせ~
平成30年第1回定例会は、2月下旬に開会の予定です。最新情報は、ホームページや北海道議会ツイッター(@hokkaidogikai)などをご覧ください。
▶議会事務局政策課 ☎(011)204-5691



# ほっかいどう

## 未来への 元気遺産!

網走市、大空町、美幌町、津別町

倶知安町、ニセコ町 北海道を元気にする、人・もの・アイデアを紹介します。

水辺編

### 尻別川を再び、絶滅危惧種イトウの自然繁殖地に

尻別川の未来を考えるオピラメの会 / 倶知安町・ニセコ町

尻別川はかつて、1m以上のイトウが釣れることで有名な清流でした。ところが昭和時代の河川工事などによって、イトウが繁殖できる環境は失われていきました。

絶滅の危機に、釣り人たちは1996年、「オピラメの会」を結成。研究者・技術者たちも加わり、尻別川にイトウ個体群を復活させるために30年がかりの長期計画を立てました。

※尻別川に生息するイトウの地元での呼び名 流域にわずかに残る自然繁殖地で24時間体制の「イトウ見まもり隊活動」を実施。2012年には、稚魚放流の手法でイトウ繁殖地の再生に世界で初めて成功し、当面の絶滅危機は回避されました。



イトウから採卵するメンバー

日本最大の淡水魚イトウが生息するのは国内では北海道だけ。野生の姿は迫力があり、多くの釣り人たちを魅了してきました。

現在、私たちはイトウの絶滅を防ぐために、ニセコ町の有島記念公園に池をつくり、60尾ほど飼育しています。間近でイトウの生態を知ってもらえたら、私たちの夢も次世代へと引き継げると思います。

▶お問い合わせ 事務局 ☎090-8279-8605(川村)

まずは、イトウの迫力を間近で見てほしい。



オピラメの会 事務局長 川村 洋司さん



北海道e-水プロジェクト

2018年の支援対象団体を募集中! 詳しくはこちらへ

北海道、北海道コカ・コーラボトリング(株)、(公財)北海道環境財団が協働し、道内の水辺で環境保全に取り組む団体を支援する「北海道e-水プロジェクト」。今回は、その中から2団体を紹介します。

北海道e-水プロジェクト

検索

### 上流から下流までつながる産業を守り続けたい

網走川流域の会 / 網走市・大空町・美幌町・津別町

津別町の阿幌岳を源流に、森林や農地を通り、網走湖、オホーツク海へと流れる網走川。この会は、流域1市3町と農協・漁協・森林組合などが協力して川の水質を守ろうと2015年に発足しました。

きっかけは、豪雨による農地崩落によって、川の濁流が湖や海に流れ、漁業に大きな被害を与えたことです。山・川・海のつながりを知り、地域の産業を支えるには、自治体や組織の壁を越えた協力が必要でした。上流から下流までをテーマにした農業・漁業体験など、子どもたちへの「流域学習」にも力を入れています。



流域の森で、川の始まりを探すツアー

農業者と漁業者が環境保全で協力することはかつてなかったこと。しかし、パルト海沿岸の各国が協力して海や川の汚染を改善し、サーモンが川に戻り、農産物の安全性もPRできたという事例を知り、網走でも同じことができないかと考えました。

上流の人はきれいな水を流し、下流の人はそれに感謝しながら、安全でおいしい食材があることを誇りに思う。その大切さを子どもたちに伝えていきたいですね。

▶お問い合わせ 網走市水産漁業課 ☎(0152)44-6111

流域の子どもたちに、誇れるふるさとを残したい。



網走川流域の会 会長 新谷 哲也さん

今回は特別編!

北海道150年

なるほど! 知るほど! 広報紙

### 広報誌創刊から12年間、表紙を描いたおおば比呂司氏

広報誌「ほっかいどう」の創刊は、今から46年前、札幌オリンピックが開催された1972年。その表紙を12年にわたり描き続けたのが、札幌出身の漫画家であり画家のおおば比呂司氏(1921~1988年)でした。彼のイラストは、北海道をはじめ全国各地のお菓子や食品パッケージにも使われるなど、その温かな作風は、いまでも多くの人に親しまれています。広報誌の仕事について、「ふるさとへの思いを込めて表紙を描き続けてきた。難しいテーマがあったり、懐かしくて筆の方が勝手に動いてしまったりと、どれも思い出深い作品ばかり」と述べているおおば氏。

当時の原画は札幌市にある「おおば比呂司記念室」に所蔵・展示されています。また、没後30年のことしは、150年事業として「おおば比呂司、癒しの世界展」が札幌市内3カ所です8月14日から同時開催されます。ぜひご覧ください。

※当時は冊子であったため、「広報紙」ではなく「広報誌」と表記。

▶お問い合わせ おおば比呂司記念室(札幌市資料館内) 札幌市中央区大通西13丁目 ☎(011)272-1367



▲赤れんが庁舎のイラスト



▲広報誌「ほっかいどう」創刊号の表紙

### 当てよう! 道産品

抽選で50名様

北海道コカ・コーラボトリング(株)「ジョージア サントスプレミアム」(30本)をプレゼント! 道内の雄大な自然が描かれたこの商品の売り上げの一部を寄付として活用し、上記の「北海道e-水プロジェクト」が実施されています。

#### 次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

3月号の中で最も興味を持ったのは、どの記事ですか

- ①特集(みんなでつくる、北海道150年事業)
- ②お知らせ! 赤れんが ③注目! 地域から
- ④報告! 道議会 ⑤未来への元気遺産
- ⑥なるほど! 知るほど! 広報紙



●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

- 応募方法: アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。
- 応募期限: 3月23日(金)必着 応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。
- 応募先: ハガキ ☎060-8588(住所不要) 携帯サイト
- 北海道広報広聴課「当てよう! 道産品」係
- パソコン 広報紙ほっかいどう 検索
- 掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。 ※12月号のプレゼントには、4,193件の応募をいただきました。



北海道の人口	総人口	男	女
平成29年12月末	5,339,980人	2,522,754人	2,817,226人
前年同月比	31,174減	14,779減	16,395減

※人口は毎月公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。

次号のお知らせ

次号は5月に配布予定です。

3月3日(土)午前10時20分からHTB北海道テレビで広報番組「情報カフェ 赤れんが」を放送。「北海道命名150年」をテーマにお届けします。

広告